

# 北区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
北区域安全安心のまちづくり事業(スケアード・ストレートによる自転車安全教室開催事業)		北区自治連合協議会・北区			
事業目的	事業内容	活動指標	H27	H28	H29
平成28年に、北区で発生した交通事故742件のうち、自転車に関連する事故は250件で、全事故の33.7%を占めており、府下平均の30.7%を上回っている。 交通事故の中でも、高い割合を占める自転車関連事故を減らし、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを行う。	自転車に関連する事故を減らすため、警察や地域と連携して、スケアード・ストレート(自転車事故恐怖疑似体験)を実施することによって、自転車の安全運転についての意識を向上する。	参加者数	光竜寺・大泉校区 約300人 新金岡・ 新金岡東校区 約350人 新浅香山校区 約150人 金岡南校区 約300人	北八下校区 約300人 百舌鳥校区 約450人 中百舌鳥校区 約650人	西百舌鳥・ 百舌鳥校区 約700人 金岡南校区 約300人
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
◎	特に自転車を利用する子どもたちの交通安全に対する意識向上を図ることで、事故の発生を抑えることができる。	○	各校区の自治会関係者、北堺警察署、学校関係者と連携することで、児童・生徒・PTAや地域の方など多数が参加し、実施することができた。	◎	スケアード・ストレート(自転車事故恐怖疑似体験)教育技法という手法により、交通事故の恐怖を疑似体験することができる。
④効率性		○	多数の参加者の目前で交通事故の瞬間が再現され、事故の恐怖を感じることで、一度に多くの人に交通安全に対する意識を高めてもらうことができる。		
⑤自立発展性		総合評価			
○	3年間で、合同開催も含めて11校区で開催。今後は警察や学校等と連携し、各校区における安全教室等の開催につなげる必要がある。	○	参加者は交通事故の起こる瞬間を擬似的に体験し、事故の恐怖を実感することができる点で各校区や学校関係者にも好評である。 また、北区内の全事故に対する自転車事故の割合は、前年の36.1%に比べて、平成29年は29.4%に減少している。		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し <b>廃止</b>	各校区スケアード・ストレートを開催したので、一旦スケアード・ストレートによる自転車安全教室開催事業は終了とする。				